

びざん



JA NEWS 2022 NO.634



「営農経済事業取組冊子」を折り込んでいます。是非、ご覧ください。

表紙写真は新聞浩之さん(61)、妻 小百合さん(55)です。佐那河内村にて、2人で大川原ねぎを施設面積2畝、すだち・ゆずを55坪で栽培しています。

浩之さんは、平成19年に就農するまでは会社員として勤めていました。農業に従事し、一番喜びを感じる瞬間は、「良いものが栽培できたとき。良いものができたときは、すべての作業をスムーズに行うことができる。一つ一つの丁寧な作業が、すべての作業効率にも繋がることを実感できることが面白い。」とのこと。灌水管理が非常に難しく、水加減一つが成長に大きく影響する。しかし、佐那河内村は、年配の生産者の方にも相談しやすい環境。村の『常芸』に定期的に参加する習慣等の様々な風習は、周田との『コミュニケーショ』を円滑に運んでくれている。他の地域にはない、村の良いところだ。」と話します。

小百合さんとは、出荷以外のほとんどの時間は一緒に作業を共にするが、買い物や趣味の時間も共有するほど仲の良い二人。

「二人で奥南に釣りに行ったときに47センチのチヌが釣れて感激した。」と、アクティブで明るい小百合さん。浩之さんは、「気候などの影響もあり、例年どおりのことを続けてもうまくいかないこともある。毎年が試行錯誤ではあるが、良いものを安定して栽培し続けられるように今後も努力を続けていきたい。」と語りました。

多家良支所いちご部会 新しいミニのぼり旗でPR

多家良支所いちご部会は1月初旬、さらなる販売力強化を目指し、販促用ミニのぼり旗を製作しました。ミニのぼり旗は「さちのか」をより多くの消費者にアピールする目的で、南部合同青果株式会社(大阪府堺市)に設置される他、今後、市場を通じて販売店に配布、設置を促す予定です。

また1月末に和歌山県和歌山市のスーパーマーケット・エバグリーンプラス和歌山北インター店にて、徳島県、エバグリーン広尾株式会社、JA全農くしまが主催する、徳島県産青果物の販売PRを目的に開催された「阿波ふうどフェア」にも、このミニのぼりが掲示され、いちごが販売されました。ミニのぼり旗は「さちのか」の味わい豊かなイメージを表現した、2パターンのデザインが採用されました。今年度、同部会は生産者13名で栽培面積251坪、総出荷量90トンを目指します。

同部会は、「全国で新しいいちごの品種が増える一方で、『さちのか』は生産量が減りつつある。改めて『さちのか』の名前も美味しさも再認識していただきたい。」と願いを込めています。



佐那河内支所みかん部会 貯蔵庫を巡回

佐那河内支所みかん部会は1月19日、部会役員約20名と当JA職員、JA全農くしま担当者とみかんの貯蔵庫の巡回を行いました。出荷に向け、各生産者が所有する貯蔵庫を班に分かれて訪問し、果実の大きさや着色、規格別の貯蔵量の割合の調査、貯蔵状況を確認しました。

佐那河内村は、温州みかんの貯蔵産地として百年以上の歴史を誇り、現在は糖度や貯蔵性が高い品種として「十萬」「大津」「縄手」を栽培・出荷しています。収穫したみかんは3カ月間、土壁づくりの貯蔵庫で熟成させています。品質を保持するため、貯蔵庫は室温3〜5度、湿度約85%で管理しています。今年度産の貯蔵みかんは、8月の日照時間が少なかったことから、果実が小ぶり、全体的にやや出荷量も少ないですが、収穫時の糖酸含有量が近年になく高い数値でした。市原善文部会長は「味には自信があるので、たくさんの方に食べていただきたい。」と話しています。

同部会は生産者70戸で栽培面積約40畝を栽培。貯蔵みかんは2月上旬から3月中旬まで、主に関東方面へ出荷され、総出荷量500トン、目標販売金額は1億5,000万円を計画しています。



(▲写真は貯蔵庫でみかんを調査する大窪勢治さん)

「プロッコリーのレシピ」を 「ゴジカル」で紹介



1月27日放送の四国放送テレビ「ゴジカル」の「JA共済プレゼンツ笑味ちゃん通信」でプロッコリーが紹介され、不動支所女性部林容子部長、中谷早春さん、山田絵里さん、武市しほりさんは、「プロッコリーの茎入り よくばりきんぴら」と「プロッコリーのケークサレ」の2品を紹介しました。

きんぴらは、ビタミンC、葉酸、βカロチンが豊富なプロッコリーの茎を使用して、人参、レンコン、サツマイモと一緒に炒めた、食感が楽しめる、彩り鮮やかな一品です。

ケークサレは、フランス生まれのおかずケーキで、生地にはホットケーキミックスが使用されます。プロッコリー（花蕾の部分）、ミニトマト、ウインナー、ペーパーチーズなど具沢山で栄養たっぷり、見た目も華やかな一品です。林部長は「栄養たっぷりなので是非作っていただきたい。」と笑顔いっぱい料理し、プロッコリーの魅力をアピールしました。

（写真）右から中谷さん、林部長、山田さん、武市さん、森本晴香アナウンサー※調理完了後、撮影のために一時的にマスクを外しています。



キウイフルーツ 冬季剪定講習会開催

佐那河内支所キウイフルーツ部会は17日、徳島県高度技術支援課担当者を講師に招き、圃場でキウイフルーツの冬季剪定講習会を開き、生産者約20人が参加しました。キウイフルーツは、果実に日光が当たらないと果実肥大が緩慢になり、糖度が上がらないことから、高品質な果実に栽培するため、枝をまひき、剪定の仕方を学びました。同部会は生産40人で約6畝を栽培しています。参加した生産者は「剪定技術向上に努め、安定した出荷を目指したい。」と話しました。

選果、箱詰め作業も
順調です。



「JA」ふるさと応援隊」が 「さくらももちご」収穫体験

佐那河内ももちご部会は、12月21日、日本航空株式会社客室乗務員「JA」ふるさと応援隊」を招き、地域活性化のため、村特産のブランドいちご「さくらももちご」の収穫体験を行いました。「JA」ふるさと応援隊」は、フライト業務を行いながら地域のイベントの参加や地域産品の企画・PRなどに取り組む客室乗務員です。

収穫や箱詰め作業の様子、日本航空株式会社、航空輸送事業のネットワークを活かし、SNSなどで情報発信しています。この活動は、日本航空株式会社が全国各地の地域特産品の発掘などの地域産業支援を行い、地域の活性化や課題解決に向けて継続的にサポートを行うものです。

昨年9月中旬に、「JA」ふるさと応援隊」徳島県担当の客室乗務員、恩田美砂緒さんと本松千波さんが定植作業を行った「さくらももちご」を、今回も2人が収穫、箱詰め作業を行いました。恩田さんは農業体験を通して、「様々な作業を通してたくさんの方々の苦労を知ったが、自分が植



えたいちごがこんなに大きく立派に成長してくれて、非常に感慨深い。」と笑顔で話しました。また、収穫した「さくらももちご」を試食し、「幻のいちごと聞いていたが、その名の通り、粒が大きく非常に甘くて上品な味わいだ。」と述べました。

また、同部会と村で現在募集を行っている、いちご生産者となるためのノウハウを学び、地域おこし協力隊として村に移住する「佐那のいちご塾」の協議会において昨年11月に発足された地域事業本部所属の客室乗務員「JA」ふるさとアンバサダー」(一定期間移住し、自身の故郷やゆかりのある地域に移住し、培ってきた知見を活かし地域課題解決などに取り組む客室乗務員)が、オプザーバーを務めています。同部会栗坂政史部会長は「今後もJAとの協働、連携を深めていき、相互にメリットのある展開ができれば嬉しい。」と話しています。

（写真）いちごの収穫体験を行った客室乗務員の①恩田美砂緒さんと②本松千波さん



「さくらももちご」を使ったいちご大福大人気

和菓子店有限会社福屋は、「さくらももちご」を使ったいちご大福「さくらももちごの里」を毎年、期間限定で販売しています。

約20年前、徳島市の百貨店のイベントの目玉企画として、「ももちご」を使用したコラボ商品を

開発し、限定販売したところ、大粒のいちごを丸ごと使用し、一口では食べきれない程の大きさでインパクトとなり、話題を呼びました。

現在は、「さくらももちご」が使用されており、昔ながらの製法で柔らかく練り上げた餅で、いちごの味わいを際立たせる甘さを抑えた自家製餡といちごを一つ一つ手作業で包み込んでいます。いちごのみずみずしさと甘さ、程よい酸味が、素朴な餅と餡に見事に調和し、ボリュームはありますが1個、軽く食べることができると評判です。

同社谷内秀彰代表取締役は、「いちごそのものの品質が良いからこそ成り立つ商品。さくらももちごの味わいを最大限に活かす材料作りを心がけている。」と話します。

昨年の期間中は約1万2千個が販売され、1個777円(税込)。3個化粧箱入り2,570円(税込)、6個化粧箱入りは4,968円(税込)。鮮度が大切な商品のため、店頭や自社ホームページのみでの販売となっています。今年度は4月中旬まで販売される予定です。谷内代表取締役は「美(まこと)の商人は、先も立(たち)、我も立つことを思うなり」の言葉のように、これからもお客様、生産者の方々に笑顔にできる商品づくりに努めたい。」と意気込んでます。

（写真）「さくらももちごの里」をPRする従業員





確定申告に向け 税務支援研修会を開催

1月13日、職員を対象とした税務支援研修会を開催し、約70名が参加しました。研修会は毎年、この時期に開催されており、令和3年度税務申告の支援を正確かつ円滑に実

施する為、徳島税務署担当者として山下健人税理士の2名を講師として招き、今年度の税制改正についてや、国税庁が挙げる過去にあった誤りやすい点の事例、また税務支援業務における注意点、コロナ特例の処理方法について説明があり、参加者は熱心にメモを取るなどして聞いていました。

税理士会との「協議派遣方式」により組合員の税務申告を職員が支援しています。納税支援業務は組合員からの期待が大きく、職員も日々の業務と調整を行いながら組合員の方々の期待に応え、信頼され愛されるJ Aを目指して取り組んでいます。

八万支所融資課岡島英則課長は、「組合員の方々の負担に応えられるように精一杯、努めた」と話しています。



給食に「渭東ねぎ」など県産食材 子どもたちに「食」への関心を

徳島市教育委員会体育保健給食課は徳島市の公立小・中学校で毎月19日の「食育の日」に、県産食材を使用した献立や郷土料理を給食で提供しています。

旬の食材を活かし、また児童・生徒に地元ならではの食材に給食を通じて触れてもらい、さらに地域の食文化に興味や関心を持ってもらうことがねらいです。1月19日は、当J Aの渭東青ねぎ出荷部会が生産している「渭東ねぎ」がたっぷり入った「とり肉のねぎソース和え」と、徳島県産のさつまいも、生しいたけ、ニンジン、大根、わかめなどを使用した「徳島たっぷりみそ汁」のメニューが提供され、児童らに人気でした。

他にも同課では、使用する食材の産地などを分かりやすくまとめたリーフレットを毎月、各学校へ配布し、さらに児童・生徒への理解を深めてもらう取り組みを行っています。

徳島市宮井小学校の3年生の児童は、「具がいっぱい。さつまいもが甘くておいしかった。近くで作られている野菜がたくさん食べられて嬉しい。」など笑顔いっぱいでした。



市営バスにポスター 農業に親しみを

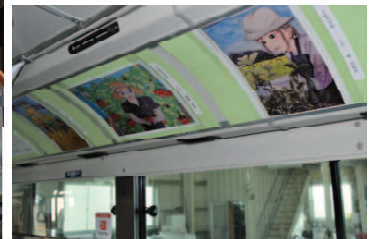
2月1日より、徳島市交通局が運行するギャラリーバスに、甘姫、ブロッコリー、渭東ねぎ、カリフラワーのポスターを掲示しました。

ギャラリーバスとは、地域の幼稚園や小学校、中学校に通学されている方や地域の方々のアート作品(図画、詩集、水墨画)をバスの車内に掲示し、バスに乗車される市民へ「癒し」や「和み」を提供することを目的に運行されます。

今回は徳島市農業委員会主催の「田・畑で働く人」をテーマに、徳島市内の小中学生を対象に募集した「農業と農村の図画(コンクール)」の入賞作品12点と共に車内の窓上部のスペースに掲示し、さらに徳島市農林水産課が「地域の農作物に親しみをもってもらいたい」と地域で生産されているJ Aの農作物のポスターの掲載を企画し、作品と共に、窓上部



運転席後ろには、大きな甘姫のポスター



運行期間は3月31日までの約2カ月間。徳島駅を起点とした一部地域で運行予定。



連載

～営農指導兼経済渉外員の活動をご紹介します
「組合員の方々と同じ目線で。」

第7回：北部営農経済センター 山田 真也 営農指導兼経済渉外員



南井上地区担当の山田真也営農指導兼渉外員は、地域に密着し、地域に根ざした仕事に就きたいという思いから入組しました。入組して8年。組合員の方々への訪問を活動の「軸」と捉え、圃場に顔を出す機会を増やせるよう渉外活動に邁進しています。北部営農経済センターで定期的に行う勉強会では、肥料・農薬の成分や効果の持続性、使用時期等について勉強しており、組合員の方々へ役立つ知識を培っています。

山田営農指導兼渉外員は、「短時間の訪問であってもできるだけ『精度の高い情報』を届けられるように、努力を続けたいです。組合員の方から『山田が必要だ』とおっしゃって頂けたら、それが最高の誉め言葉です。」と話します。

業務において心がけていることは、自分自身で組合員の方々のニーズを汲み取り、自らの行動を考えるとそうです。「職員としての立場から客観視することも大切ですが、場合によっては、組合員の方々と同じ目線で物事を見ることも大切だと思っています。経験豊富な組合員の方々から学びながら、同じ気持ちになって、問題解決に取り組み、真摯に向き合う姿勢を大切にしたいです。そうすることで、自分自身の経験値も高めていきたい。」と向上心溢れます。プライベートでは、テニスやゴルフ、好きなアニメの鑑賞で充実した休日を過ごし、仕事も趣味も全力投球です。



▲南井上支所管内の養手達矢さんのほうれんそうの圃場、ブロッコリーの育苗ハウスに訪問しました。ほうれんそうの圃場では、土壌分析のサンプルを採取しています。

「オミクロン株の重症化率について」

徳島往診クリニック 吉田大介

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。1月29日の東京都の新型コロナウイルス感染者は1万7,433人であり、直近1週間の平均の新規感染者数は1万3,781人と前の週の1.9倍となっています。徳島県では、1月29日の感染者数は163人と4日連続100人超であり、過去最多を更新し続けている状況です。まさに感染爆発といった様相ですが、米疾病対策センター（CDC）は25日、オミクロン株による感染症の流行期には、従来株やデルタ株の流行期と比べて入院患者の重症化率が低かったとする研究結果を発表しました。米国内で最初に感染が拡大した2020年12月から昨年2月、デルタ株が中心だった昨年7月中旬から10月、オミクロン株が優勢になった昨年12月中旬から今年1月中旬の3期間を比較したところ、入院患者のうち集中治療室（ICU）に収容された患者の割合はオミクロン期が13%前後と、デルタ期と昨冬の各18%より低く、オミクロン期に入院先で死亡した患者は約7%で、これまでの12%あまりを下回ったとのこと。入院期間も平均5.5日、デルタ期の7.6日、昨冬の8日に比べて短くなっていました。こうした傾向の背景の要因として、ワクチンの追加接種の普及・既往感染で獲得された免疫の効果・オミクロン株の病原性が低い可能性を挙げています。

オミクロン株が重症化しにくいということを受けて、最近、インフルエンザと同等の扱いではないのではないかという議論が盛り上がっています。現在新型コロナは2類感染症に指定されていて、医療費を国が助成したり行動制限が出るなどしていますが、インフルエンザ相当の5類になると保険診療となったり緊急事態宣言などの行動制限がなくなるなど対応が変わってきます。コロナ専用病床の必要が無くなりますから病床確保も格段に容易となりますし、行動制限が解除されれば、経済復興にも繋がると考えられます。

ここで問題となるのが、オミクロン株の「感染のしやすさ」です。英健康安全保障庁によると、病院を受診するリスクはオミクロン株ではデルタ株の約半分、入院が必要になるほど重症化するリスクは、デルタ株の3分の1でした。しかしながらオミクロン株の感染の広がりやすさ（伝播性）は、デルタ株の3倍近いとされています。このため重症化率が低くても、感染者数が膨大になれば重症患者数が急増し、社会全体としての重症化のリスクは高くなってしまいます。

今後新型コロナウイルスが感染症5類に引き下げられ一般のクリニックや病院にも患者さんが押し寄せるようになった場合、事態を瑕疵なく乗り切るためには簡便に処方できる内服薬が必須だと考えます。新型コロナウイルスの経口治療薬である「モルヌピラビル（商品名 ラゲブリオ）」が昨年末日本国内でも特例承認されましたが、今後も新しい経口薬が1日も早く開発されることを期待します。

農業空容器・不要農業回収のお知らせ

地域の環境保全や資源の有効利用を進める上で、農業の適正処理が必要です。JA徳島市では、下記のとおり農業空容器と不要農業の回収を実施致しますのでご案内申し上げます。

1. 回収場所 : JA徳島市各営農経済センター
各支所（八万支所・加茂名支所除く）
※八万支所・加茂名支所の方は最寄りの営農経済センターもしくは支所での回収をお願いします。
2. 回収日時 : 令和4年3月8日（火）
午前9時～10時30分
3. 回収品目 : 金属缶・ポリボトル・ポリ袋・アルミ缶
アルミ袋・ガラス瓶・紙袋・不要農業（液）
不要農業（粉・粒・水和）
4. 荷 姿 : 市販透明ポリ袋に排出用シール
（購買窓口で配布）を貼付けてください。
不要農業は、市販透明ポリ袋に入れた上、
ダンボール箱に入れ、排出用シールを貼付けてください。
空容器は必ず「すぎ3回」してください。
5. 回収料金 : 1kg 当り（端数単位は切上げ）

種 類	回収料金（税込）
金属缶	275 円
紙袋	275 円
アルミ缶・アルミ袋	275 円
ポリ袋・ポリ瓶	275 円
ガラス瓶	275 円
不要農業（液・粉・粒・水和）	275 円

6. 決 済 : 現金または口座引落
（令和4年3月18日頃口座引落予定）
7. 対 象 : 正・准組合員及び管内当 JA 利用者
（卸・小売業者は対象外）

※回収時に委任状を頂きますので印鑑の準備をお願い致します。

お詫びと訂正

本誌2022年2月号の1ページ「青壮年部がとくしまマルシェに出店」の記事において、青壮年部参加者の名前表記に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げます、ここに訂正いたします。

誤) 蓑手達也 正) 蓑手達矢
誤) 蓑手宏紀 正) 蓑手宏紀

関係各位には多大なるご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

理事会だより（令和4年1月28日）

協議事項

- (1) 令和3年度事業 第1期施設整備工事に係る備品購入について
- (2) 徳島県農業信用基金協会への出資金増資について
- (3) 出資口数の一部減口について
- (4) 3億円超の信用の供与について
- (5) その他

報告事項

- (1) 令和3年度みのり監査法人による期中監査Ⅱの実施について
- (2) 反社会的勢力との取引排除および疑わしい取引の届出等組織犯罪等の防止にかかる対応状況について
- (3) 苦情等の受付対応実績報告について
- (4) 事務リスク管理規程に基づく事務ミス等の発生状況・自主検査の結果および改善状況について
- (5) 債権回収について
- (6) 第3四半期の余裕金運用状況報告について
- (7) 第4四半期の余裕金運用方針について
- (8) その他

島田清弁護士無料法律相談

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合がございます。

- 日時 第3土曜日 9:00～12:00
- 申込先 金融共済部へ事前に予約が必要
☎088-622-8003
- 場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

- 日時 3月1日（火）、8日（火）、29日（火）
9:30～15:00
- 申込先 総務部へ事前に予約が必要
☎088-622-6335
- 場所 本所1階ローンセンター